

## 令和元年度 第2回精華町子ども・子育て会議 会議録要旨

日時：令和元年8月22日（木）

午後1時30分～午前3時30分

場所：精華町役場5階

### 1 開会

あいさつ

### 2 委員紹介

新任委員の紹介 第3号委員 社会福祉法人精華町社会福祉協議会 福味 加世子委員

#### 審議会成立の確認

委員14名中、12名の出席により過半数を上回っており、本審議会は成立。

#### 傍聴者

0名

### 3 議事

#### (1) 精華町子ども・子育て支援事業計画評価等について

事務局 説明 資料1 地域子ども・子育て支援事業進捗状況

資料1-1 精華町の幼稚園・保育所・放課後児童クラブの現状

#### (2) 精華町第2期子ども・子育て支援事業計画骨子案について

事務局 説明 資料2 精華町児童育成計画 精華町第2期子ども・子育て支援事業計画骨子案

(飯田委員)

アンケート回収結果が就学前児童、小学生児童とも50%前後で、2人に1人しか返ってきていないが、返ってきていない方もほぼこのような考え方であろうという前提で進めていくということか。

(事務局)

アンケート回収率については50%あるため、統計上全体的に意見を聞いていると判断出来る数字だと思っている。アンケートを取っている中でパーセントの少ない内容に関しては、各団体へのヒアリングなどから細かい意見をくみ取っていこうと思っている。

(田中委員)

6 ページの 4、就労の状況についてはフルタイムとパートを合わせた数値か。

(事務局)

合わせた数値である。

(北村(伸)委員)

26 ページ、27 ページに障害の「がい」の漢字、ひらがな表記にばらつきがあるのは何か考えがあつてのことなのか。

(事務局)

「障害児者ふれあいのつどい」については事業名として漢字になっていたの漢字として  
いる。他の「障害」については、「障害福祉計画」など町の計画において漢字になっている  
ところは漢字を使っているが、一般的には近頃、障害の「がい」を平仮名で書くことがあるた  
め、こちらでもう少し精査して考えたい。

(北村委員)

30 ページの目標 3 で、「応援するまち」と入れたのは非常に良いと思う。それであれば  
31 ページの施策の柱のところ「応援する」も太字にしたらいいのではないかと、個人的  
には思う。

(田中委員)

私も目標 3、地域ぐるみのところで引っかかっているが、地域ぐるみで子ども・子育て  
を見守り応援するまちとなっている。そうすると健常者と障害のある子どもたちの見分け  
がつかない。そこに障害者にかかわる文言を入れてほしい。これだけであれば、健常者の  
子どもが対象というように考えられてしまう。

(事務局)

検討する。

(北村(伸)委員)

29 ページの課題1で、アンケート結果から将来的に望む支援として3番目のものが上がっているのが疑問だ。1番、2番のものはもうできているからよいということか。

(事務局)

1番目、2番目はサービスの提供の部分がかかわる。多様な支援という意味合いで3番目のものをあげている。

(北村(伸)委員)

1、2番目を無視しているととらえる人もいるのではないか。

(事務局)

また検討する。

(飯田委員)

29 ページの課題2で就労状況について、子育て以外に仕事を持っている人のことばかり書かれている気がする。専業でしている人の部分も入れられたら良い。専業の人が、家事と育児をやって当たり前とみられて重圧を感じている、と聞いたことがある。専業でしている方への文言も入れてほしい。

(谷口委員長)

おっしゃる通りだと思うので、働いている人も支援するが専業の方も支援しますと入れればと思う。

(早樫委員)

30 ページ目標3について、「応援するまち」が入っているのがよいと思う。ところが文章の中には、目標1と2には応援するまちが入っているのに目標3では入っていない。文章上だけの問題だと思うが、整理が必要だ。「地域ぐるみで子育てを応援するまち」とした方が願いもはっきりするのではないか。

(事務所)

参考にさせていただく。

(谷口委員長)

個人的な意見だが、目標1の「たくましく」という言葉は最近あまり使わず古いイメージがあると思う。例えばしなやかに、など、揺れるけれど芯は通っている、しっかりと生

きていけるとこの言い方の方がいいのではないか。

### (3) 幼保無償化について

事務局 説明 資料3 子ども・子育て新制度の概要

(谷口委員長)

少しわかりにくいのだが、幼稚園については25,700円を上限として保育料と入園料が無料になる。預かり保育も11,300円まで補助が出る。バス代や給食費や行事費は必要となる。保育園は3歳以上の子は保育料、施設使用料は無料となる。主食費の部分を精華町は町から出していたのだが、国の考えが主食費も副食費も実費徴収ということなので、どのようにしていくかが課題である。保育所だけ、副食費が今まで利用料に含まれていたという特殊な施設だったので、国としては今後、食べるものは自分で払ってもらうが、貧困家庭、多子の家庭については国で持つということだ。今課題になっているのは主食費、副食費の中で今までは主食費を保育料に入れていたので、給食費を別口でとるかとらないかのところだ。町としては方針は決まっているのか。

(事務局)

今までの長年の経過もあるので、一足飛びにはいかない。

(事務局)

国の無償化の関係で大きく制度が変わる流れの中で、「子どもを守る町宣言」を昭和43年からしてきて、本来主食費を現金か現物を持ってきてもらえる中で精華町は主食費を取らず、保育料と合算状態で主食費を減免してきた。保護者からすれば全部保育料に入っているイメージだが、制度上は主食費と保育料が分かれている。今後保育料は無償化され、食べるものの費用や行事、バスなどの実費がかかってくる。近隣市町村の状況を調査すると国の方針に従って対処するところがほとんどである。その中で、町独自の施策をどう打っていくか今後数か月の間に決定しなければならないと思う。副食費については国が、取ることが出来るとなっているので、今の段階では求めていきたいと思っている。主食費、副食費の値段をどうするかについては今日意見を聞いたうえで町として近々に方針を決定したい。今日の段階で取る、取らないとはっきり伝えることは難しい。

(山口委員)

保護者の方から無償化について、10月から無償化だというのが、問い合わせは来ていないのか。今宣伝でいろいろやっているが、園としては精華町と同じで聞かれる側なのにわからないので、今日わくわくしながら来た。

(谷口委員長)

幼稚園はすでに動き出している。保育園は何もしなくても無償化になるが、幼稚園は申請をしないと無償化にならないので、今保護者が申請を出している状況だ。新2号という保育園に行けるが幼稚園にきている方の預かり保育の補助が出るので、別口の申請をしないといけないため、今申請をしているところだ。幼稚園としては、始まるという実感はある。ただどのように還付される、などは全体の説明がないので、光が丘幼稚園では保護者向けに私から説明しようと思っている。

(山口委員)

私も説明をしたいのだが…。

(事務局)

問い合わせについては、認可外については宣伝を受けてか問い合わせがあるが、認可保育所については問い合わせがない。前々年度の所得から前年度の所得に切り替える、保育料の算定替えの時期が9月に当たるのだが、通知を送ることになるのでその中で案内を送る流れとなっている。

(谷口委員長)

保育園の保護者の方たちはどのようになるかがあまりわかっていないということか。

(事務局)

基本的に利用状態は変わらない、払う金額も今よりははるかに安くなる。精華町はだいたい平均で保育料が19,000円、副食費がおそらく4,500円、ということでははるかに安くなるイメージだ。負担を求める方向だともっと問い合わせがあったかもしれないが、負担を求めない方向なので、あまり問い合わせもない。

(大西委員)

給食について、無償化になり副食費が実費となったら、今まで払っていなかったが払わなければならない人も出てくるのか。

(事務所)

年収360万という、低所得者で今まで保育料が無償であった人は、副食費も払わなくてもよいようになっている。京都府独自の制度で無償になってきたところが、国の制度では払わなければならないという逆転現象が一部あるので、そこは町として何かしなければいけないと思っている。件数は多くはない。

(大西委員)

多くはないがゼロではないということか。

(事務局)

ゼロではない。ただ、従来通り負担を強くない方向で持っていきたいと思う。

(谷口委員長)

ある程度国の考えに精華町は従い、給食費は外付けにするのだと思う。本当に困っている人には給食費を無償にすればよいと思う。実際になぜそこまでしなければいけないのかと思う部分もある。幼稚園は給食費を払っているし、小学校に入ったらその人は給食費を払うので、ずっと無償ならばよいのだが、保育園だけというところで、不公平感があるのではないかと思う。

(山口委員)

思い切っていこうとするのが、国の動きに後押しされているというところがあるとみんなが感じると思う。

(谷口委員長)

そうでなければずっとずるずるといってしまう。

(事務局)

福祉サービス系は、高齢、障害、すべて昼食代を実費相当徴収するというのが基本となっているので、こちらもそれを基本とする方向だ。

(田中委員)

親にどこまで責任感を持ってもらうのかという意識のつけ方が大事だと思う。

(事務局)

一番気になるのは、隣町は主食は現物、隣町は何百円、精華町は徴収しない、という状況があり、これをどのようにもっていくべきか最終決定したい。

(谷口委員長)

町の裁量がかなりいろいろできる無償化なので、近隣の動きを見ながらになると思う。

(事務局)

精華町の保護者の方で、主食費を本来払わなければならないというイメージを持ってい

ない人が大半だと思う。そのあたりを過去数十年説明ができていなかったのはこちらの反省点だ。一方では、その部分を町の独自政策で子どもを大切にしてきたと、一定評価はしてほしい部分だが、他方では説明をしてきていなかった故に、こうやって制度転換する際に苦しい場面も出ているということだ。

(谷口委員長)

無償化の目的は、少子化対策がとても大きい。国のアンケートで本当は子どもが何人ほしいかというので、本当は3人ほしいが経済的な理由で1人、2人しているというアンケートの結果も大きい。無償化にすれば必ず少子化対策になるという目的も書いてあると思う。また、質の高い保育を行えばしっかりとしたよい社会ができるという、2つの目的がある。安くなった、何に使おうということではなく、本当に少子化につながるような啓発を町としても行っていただきたい。せつかく国のお金を使うので、いつも子どもがにぎやかでいるような町になっていくのが一番良いだろうと私は思っている。目的をはっきりと町の皆さんにもわかっていただきたい。町としてしっかりと説明を入れていただきたいと個人的に思っている。

(事務局)

無償化で、量的な部分の拡大にはなったが、保育人材不足で受け皿の体制が追いついていかない現状がある。量を受けることで質が落ちないかという不安もある。質の向上と量の拡大を同時並行でやらなければならないが、そのバランスがとりにくいのが今の保育現場の実態がある。精華町内においては幼稚園と保育所をバランスよく利用してもらっているので極端なことは起こっていないが、全国的に1歳2歳児の待機児童が多い状況の中で、精華町もやはり同様に1歳2歳児の利用希望者が多い。小規模保育で3歳未満児を預かる場所が必要になる。ただ3歳から普通の保育所に行くので、受け皿的に、外に出していた人数を中に吸収しなければならないので、本体のとる人数を調整しておかなければあとで定員超過なり、受け入れ体制ができないという状況も生まれかねないという不安がある。こっちをとればあっちがうまくいかないという状況が出ている。そこを10月以降うまく調整したい。始まってすぐは混乱するかもしれないが、令和2年からの計画を安定的に実施できるように町も努めていきたい。

(谷口委員長)

少子化になっていくよりは最低でも現状維持、プラスアルファとなっていったらよい。保育ニーズが高まっていると思うが、今回の調査では、私はもっと保育園に流れるかと思ったが調査を見る限り、パートはしたいがフルタイムは難しいというのが精華町には大きく、幼稚園のニーズもあると思う。幼稚園としては預かり保育をしっかりと行いながら、保育所がいっぱいにならないように分散してみんなで考えながら進めていかなければならな

いと思う。少子化にも歯止めがかかるものになればよいと思う。ぜひ精華町としてもそのあたりは大きく打ち出していきたい。そうでないとなぜ無償化になったのかわかっていない方も多いと思う。

(大西委員)

資料2の4で計画の対象が、子ども若者に係る施策の対象は30歳未満となっているので良いかと思うが、子どもを育てるのに経済的な負担は大きいので、施策の対象年齢の「子ども」を大学生や専門学校生も含むことは可能だろうか。国で決まっていることなのか。

(事務局)

計画の対象について子ども若者に係るという部分が30歳未満というのは、その年齢も一部含まれる。すべての施策ではないので、今後大学生などピンポイントで進めるかどうか事務局内で検討する必要がある。今の意見も生かしつつ検討したい。

(大西委員)

大学生や専門学生を抱えるひとり親家庭はとても大変なので、その辺のフォローを入れて年齢を上げてもらえるならありがたい。

(谷口委員長)

議事は以上で終了する。

#### 4 閉会